

3. 聴覚障害のある人のサポート方法

(1) 筆談

- ①文章は短く、言葉は分かりやすく簡潔に。難しい漢字はさけます。
- ②ていねいな言葉を使う必要はありません。
- ③要件が的確に伝わるようにしてください。

具体例

- × 朝食は7時にご用意させていただきますがよろしいでしょうか。
- × ちょうしょくはしちじでいいですか。
- 朝食は7時でいいですか。

(2) 手話

- ①よく使う言葉を手話で覚えておくと便利です。
- ②手話は手指だけでなく、表情豊かに身体全体で表現します。
※手話ができる人は名札等にその旨を表示するとわかりやすいでしょう。

(3) 口話

- ①話しかける時は、こちらの口の動きがよく見える位置で暗い方を背にして立ちます。
- ②口の開き方を見ますので、相手の反応を見ながらゆっくりと、そしてはっきりと話しましょう。
とはいえ、「こ・ん・に・ち・は」と一音ずつ区切る必要はなく、「こんにちは」と意味のまとまりを考えて区切るようにします。
- ③分かりにくい言葉や口の動きが同じで意味の違う言葉（例：卵・なまこ・たばこ、いす・犬・リス）などは、ジェスチャーをつけたり、単語をメモ書きしながら説明します。
※指で空中に単語を書く空書も有効です。
- ④口話は神経を集中させるため肉体的にも精神的にも疲れます。時々、伝わっているか相手に確認するようにします。

(4) 補聴器を使っている人の対応

- ①補聴器を使用すれば、どんな場面でもすべて正しく聞き取れるというわけではありません。
音が耳に入っても、人の声を聞き分けることができない人もいます。また、言葉が聞き取りにくいこともあります。
- ②補聴器を使っているから聞こえていると思いこまずに「声の大きさはどうですか」「こんな話し方でいいですか」などと確認するようにしましょう。
また、必要に応じて筆談等も行うようにしましょう。